東京都江戸東京博物館紀要　第６号　2016年３月
Bulletin of the Edo-Tokyo Museum, No. 6, P. 215－231, March, 2016

廣田理太郎邸に関する資料の紹介

早　川　典　子*

目　次

１．はじめに
２．施主・廣田理太郎について
３．場所について
４．デ・ラランデ事務所について
５．建設に関わったひとびと
（１）矢部國太郎・又吉
（２）高田商会
（３）根岸吉松
（４）清水米吉
（５）旭硝子合資会社
（６）欧風金物堀商店
６．書簡について
７．まとめ

キーワード　建築資料　ゲオルグ・デ・ラランデ　矢部國太郎　矢部又吉　廣田理太郎

１．はじめに

廣田理太郎邸は、ドイツ人建築家ゲオルグ・デ・ラランデが設計した住宅である。雑誌『建築画報』（第３巻８号）建築画報社・1912年（明治45）７月号での掲載があり、東京市麹町区下二番町という所在地も記され、この建物の存在は知られていた。誌上では「セセッション式。設計、監督共に、ゲー、デ、ラランド氏なり。」という解説とともに外観の写真２点が確認できる。

1912年１月に発行された『日清朝土木建築業者信用録　第一版』（日本実業興信所発行）[1)] には、「麹町区下二番町廣田理太郎氏住宅　三階建塗家　138坪」との記載がある。こちらには建物の写真の掲載はない。

また、廣田理太郎の長女静枝、のちの女性政治家加藤シズエ（1897 ～ 2001）が著書の中で自邸について以下のように語っており、明治末期に発行された雑誌等の記述を補完するものとして知られていた。

*江戸東京たてもの園学芸員

「私が16歳になりました時、父が新しく建てた家のことも忘れられません。

父は建築に非常に関心を持っておりましたので、ドイツの有名な建築家デラランダーさんが日本に来られた際に、設計していただいたんです。

麹町の今までの家の、古い方の棟を壊しまして、地続きの隣の家まで買い足して、千坪余りの広さのところに、純粋な西洋館を建てました。（以下略）」[2)]

平成26年度、江戸東京博物館では廣田理太郎邸に関する資料447点を購入した。

この資料の入手経路は古書店からの説明によると、古書店向けの即売会で売り出されたものだという。このときに、もともとの出所はひとつだったと思われる資料がいくつかのまとまりに分割され、別々の古書店に分けられて買い手がついたとのことである。

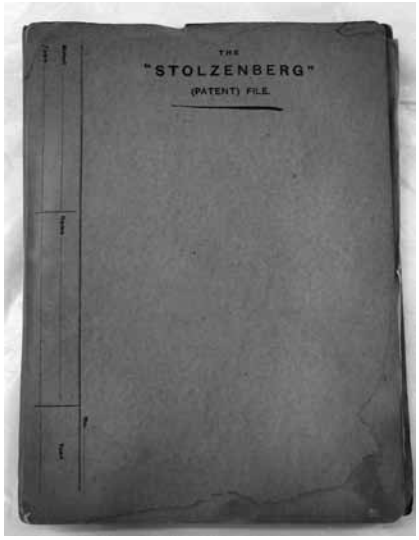
江戸東京博物館で購入した資料は、タテ32.0cm×ヨコ24.8cmほどの大きさの紙製ファイルに住宅建設の過程でやりとりした様々な文書類を時系列順に２冊にわたって綴じたものである【写真１】。

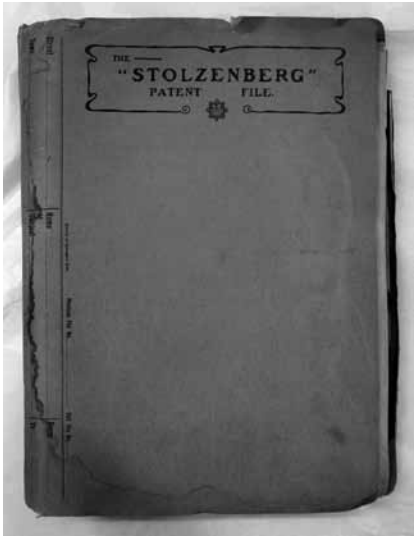
なお、資料の整理は、江戸東京博物館学芸員田中裕二と共同で行った。

これらの資料は、施主・廣田理太郎と、設計者・ゲオルグ・デ・ラランデとの間で設計の過程で交わされた書簡類のほかに、この住宅の建築工事を請負った矢部建築事務所からの請求書・領収書などを含む。また、住宅設備、家具・調度品類や絵画の購入の際の請求書・領収書などもある。国内のみならず、ドイツ、イギリス、アメリカなどからも、壁紙や、布地のサンプルを取り寄せて検討したことがわかる資料も多く綴られている。

特筆すべきは、ゲオルグ・デ・ラランデの自筆の書簡が含まれることである。廣田理太郎とデ・ラランデは、英語でやりとりしている。そのうちの一部はタイプライター打ちによるものもあり、比較的解読がしやすい。しかし、一部は手書きによるため、全ての書簡の解読には更なる時間が必要である。また、図面は青焼きの各階平面図（地下１階・１階・２階・３階の計４点　資料番号14240219 ～ 14240222）４点を含む。

ゲオルグ・デ・ラランデに関係する資料は、デ・ラランデ事務所の製図掛（かかり）であった臼井泰治氏の息子・





【写真１】紙ファイル（左14240199　右14240447）

臼井齊氏が自宅にて保管していた資料の一部は、現在、広島平和記念資料館と横浜都市発展記念館に所蔵されている。今回の廣田理太郎邸平面図は、この図面との共通点が見られる。

青木祐介氏「建築家デ・ラランデと横浜」[3] にて紹介されているポール邸の平面図は、タテ13.5cm×ヨコ17.0cm。表題には、「横濱山手ポール氏邸壱階平面図　縮尺二百分之壱」とあり、玄関を入るとホール（Hall）があり、応接間（Drawing R)、居間（Parlor)、食堂（Dining R.）と室名が筆記体で書かれている。

本資料中の廣田理太郎邸の１階平面図はタテ23.0cm×ヨコ24.0cm。表題は「東京麹町廣田氏邸壱階平面図　縮尺二百分之壱」と書かれ、玄関を入ったところにホール（Hall)、その先に応接間（Drawing R)、居間（Parlor)、食堂（Dining R.）が並んでいるプランである。同じく筆記体で書かれている。

２．施主・廣田理太郎について

施主である廣田理太郎（1865 ～ 1935）は、広島県出身の工学者･実業家である。妻･トシ（1875年生)、長男･孝一（1896年生)、長女･静枝（1897年生)、二男･洋二（1899年生)、二女･嘉代（1901年生)、三女･垰代（1901年生)、三男・博夫（1904年生）の８人家族である[4]。

廣田は、1887年（明治20）に東京帝国大学工科大学機械科を卒業。紡績会社技師、鉱山技師を経て、1894年にドイツ系商社である高田商会に入社し、事務長・監事を務めた。

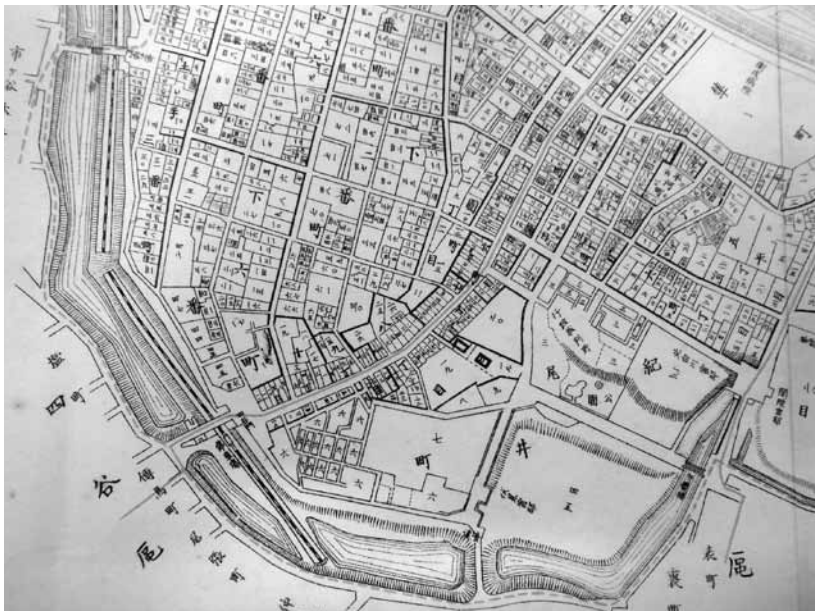
３．場所について

廣田理太郎邸が建っていた場所は、麹町区下二番町。番地については、矢部國太郎が廣田宛に出した領収書などには「麹町区下弐番町壱番地　廣田氏附宅新築」とあるが、他の書類では42番地となっているものもある。

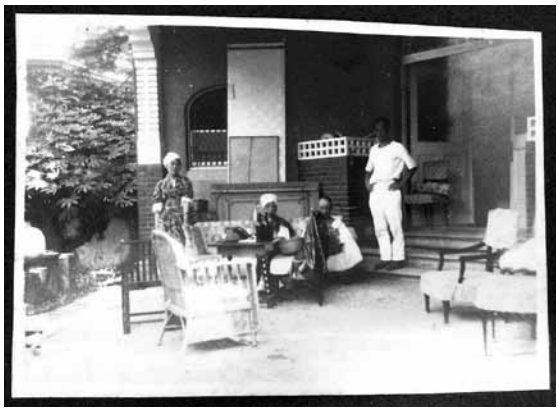
下二番町の敷地については、「麹町区全図」（1904年10月６日発行）【写真２】から確認できる。敷地割をみると１番地、42番地は隣地となっている。古い家に住みつつ、自宅を新築し、引っ越し後に古い家の解体も矢部建築事務所に依頼していることが、文書から確認できる。番地の表記は、そのときに廣田自身が住んでいた番地か、工事していた建物の番地なのかは書類の性質によって異なっていたことが考えられる。

また、廣田理太郎邸は、1923年（大正12）の関東大震災において被害を受けたことがわかっている。平成26年度に別の古書店から購入した、廣田理太郎の長男孝一が震災による被害を撮影した写真アルバムには、廣田理太郎邸の被害状況がわかる写真が貼りこまれている【写真３】。

江戸東京博物館所蔵資料のうち、麹町区の掲載がある地図から、その後の経過を追ってみると、1934年（昭和９）10月に作成された火災保険特殊地図（都市製図社作成）の麹町区下二番町には「拓務大臣官邸」とある【写真４】。1938年10月に作成された同地図の同番地には「瑞西國公使館」【写真５】との記載が確認できる。建物の規模、形状から、これは廣田理太郎邸である可能性が高い。

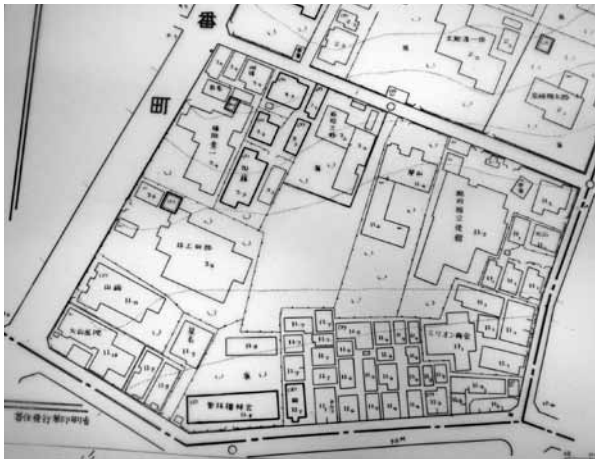


【写真２】麹町区全図　（00002359）



【写真３】「廣田孝一写真アルバム」より　（14750001）

【写真４】火災保険特殊地図（1934年）（86210435）



【写真５】火災保険特殊地図（1938年）（86210436）

４．デ・ララランデ事務所について

ゲオルグ・デ・ララランデ（Georg de Lalande）のカタカナ表記は、定まっていなかったようで、文書によって表記が異なる。本資料のうち、デ・ララランデ事務所で使用していた事務所印の印影があり、これには「建築士　ゲー、デララランデ」と表記されている。江戸東京たてもの園においては過去の研究における成果を参考に、多くの研究者が使用している「デ・ララランデ」という表記を採用している。

『日清朝土木建築業者信用録　第一版』19頁の記載によると、建築技師ゲー、デララランデーの事務所の所員の氏名と肩書は以下のとおりである。

庶務主任　　イーデニング

技師主任　　中村文十郎　（信用録では元十郎となっているが文十郎の誤りと思われる）

製図掛　　杉山赤四郎

仝　　林春三

仝　　岡崎半兵衛

仝　　寺尾於登

仝　　臼井泰治

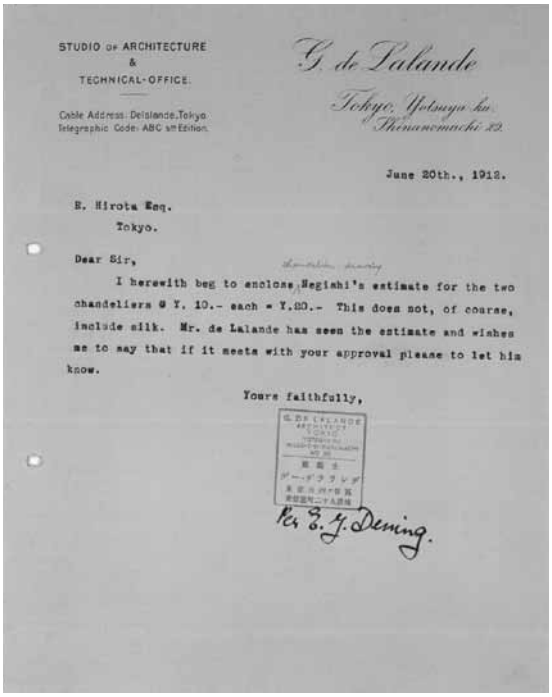
仝　　倉澤四郎

独逸語通訳　久後元長

英語通訳　　竹内松吉

仝　　渡部敏雄

この中で、本資料から、氏名が確認できる所員は、庶務主任・イーデニング【写真６】、技師主任・中村文十郎【写真７】、英語通訳･竹内松吉【写真８】



STUDIO OF ARCHITECTURE
&
TECHNICAL-OFFICE.

Cable Address: Delalande, Tokyo
Telegraphic Code: ABC 5th Edition.

G. de Lalande
Tokyo, Yotsuya-ku,
Shinanomachi 22.

June 20th., 1912.

H. Hirota Esq.
Tokyo.

Dear Sir,

I herewith beg to enclose Negishi's estimate for the two chandeliers @ Y. 10.- each = Y.20.- This does not, of course, include silk. Mr. de Lalande has seen the estimate and wishes me to say that if it meets with your approval please to let him know.

Yours faithfully,

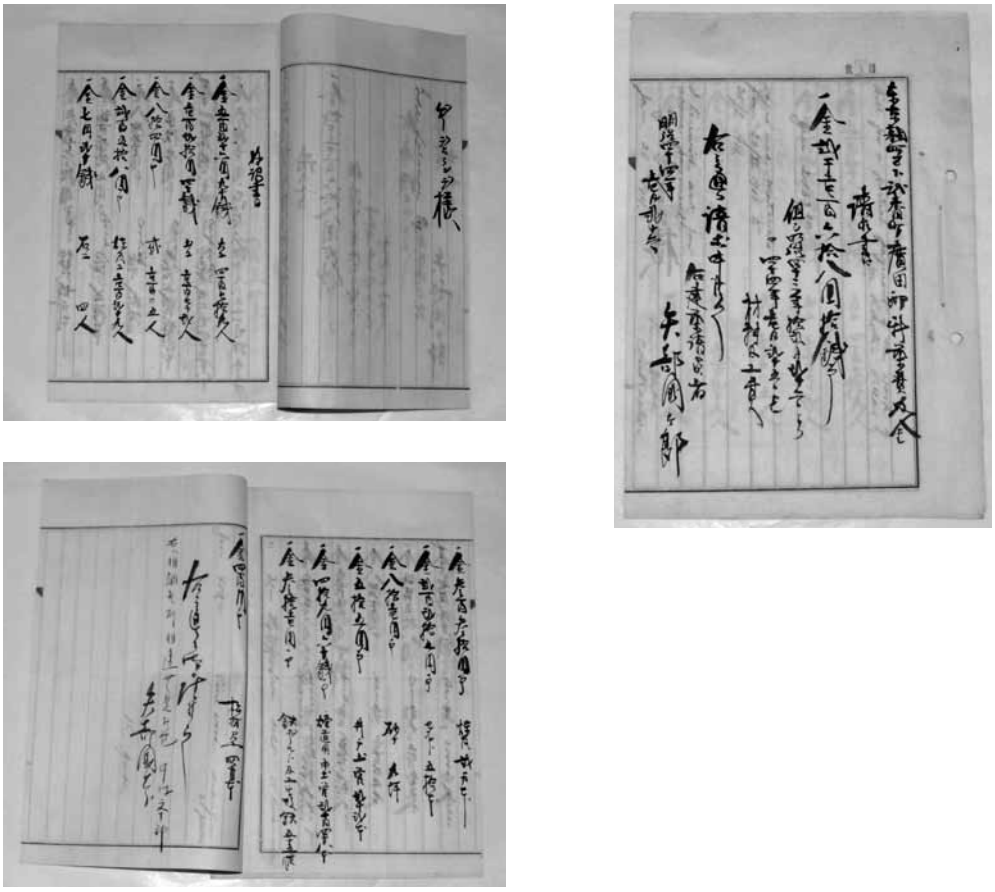
G. DE LALANDE
ARCHITECT
&
CIVIL
ENGINEER
MEMBER OF THE INSTITUTE OF ARCHITECTS
NO. 20
建築士
ゲーデラランデ
東京市四谷区
須賀町二十六番地

Per S. Y. Dening.

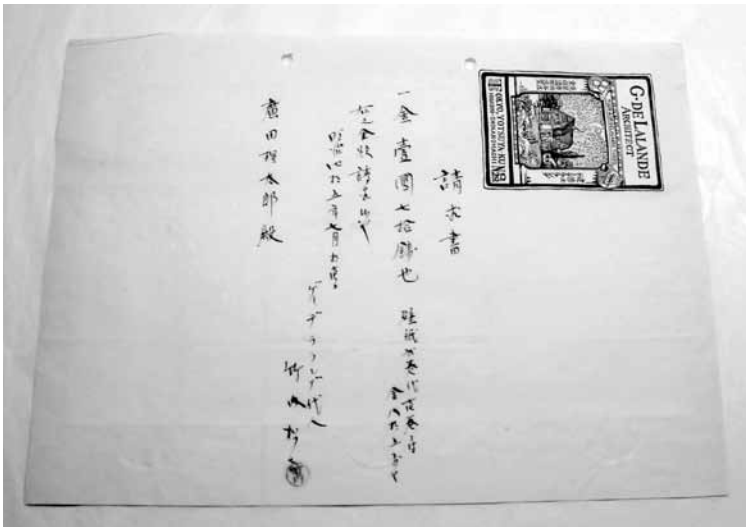
【写真６】廣田理太郎宛書簡　庶務主任イーデニング作成　（14240252）

の３名である。

これらの文書類の中には、鉛筆による薄書きで、文書が英語に翻訳されているもの、タイプライター打ちで翻訳されているものもあり「英語通訳」の活躍ぶりがわかる。デ・ラランデ事務所の業務の一端がうかがえる。



【写真７】矢部國太郎作成の請求書（技師主任中村文十郎による確認と署名）（14240022）



【写真８】廣田理太郎宛請求書　（14240265）

５．建設に関わったひとびと

（１）矢部國太郎・又吉

本資料のうち、70点ほどが工事監督を請け負った矢部建築事務所が作成した見積書、請求書、領収書等の文書類である【写真９－１】【写真９－２】。

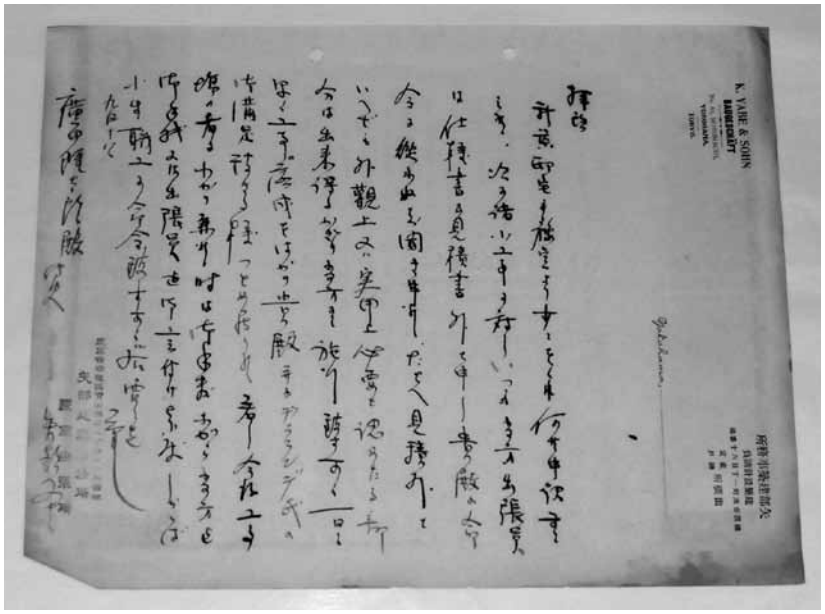
【写真９－１】矢部國太郎作成の領収書　（14240012）

【写真９－２】矢部又吉作成の領収書　（14240134）

『日清朝土木建築業者信用録　第一版』155頁には、矢部國太郎　建築設計製図工事監督業の掲載がある。自宅本店横浜市元町１丁目60番地、創業は1883年（明治16）とある。業務実績として「横浜仏蘭西領事館領事官舎新築工事」「横浜独逸領事館新築工事」「横浜オリエンタルホテル新築工事」等、地元での新築工事が多いが、「横浜本町通り萬國館（銀行）新築工事」（インターナショナル銀行　４階建て石造）「横浜本町通イリス商会新築工事」「神戸市オリエンタルホテル新築工事」の掲載がある。これら３棟の設計者は、ゲオルグ・デ・ラランデとして知られており、廣田理太郎邸以前から、両者は仕事を共にしていたことがわかる。

長男である又吉は、営業主任との肩書がある。1888年（明治21）生まれ。工手学校（現在の工学院大学）建築科を卒業後、妻木頼黄のもとで修業。1906年（明治39）にドイツに渡り、シャルロッテンブルク工科大学（現在のベルリン工科大学）に入学。日本滞在経験のあるドイツ人建築家ゼールに師事。1911年に帰国し、父・國太郎とともに活動した時期と思われる。

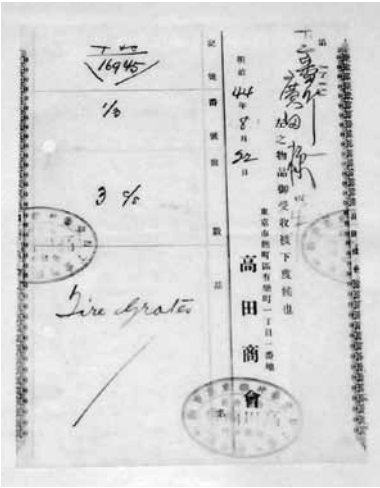
矢部又吉が廣田宛に「貴殿並びにデラランデ氏のご満足いただけるように努めている」と書かれた書簡も含まれており、興味深い【写真10】。



【写真10】廣田理太郎宛矢部又吉書簡　（14240073）

（２）高田商会

廣田は、自邸の建設にあたり、自分が勤務する高田商会を通じて、住宅関係設備を海外から輸入したようである。本資料のうち、高田商会が関係する見積書、請求書、領収書類は、40点に及ぶ【写真11】。



【写真11】高田商会暖炉納品書　（14240060）

廣田が勤務していた高田商会は、1881年（明治14）に高田慎蔵が創立した商社。欧米から各種機械、船舶、鉄砲、弾薬類を輸入して、諸官庁に納入していたという[5)]。

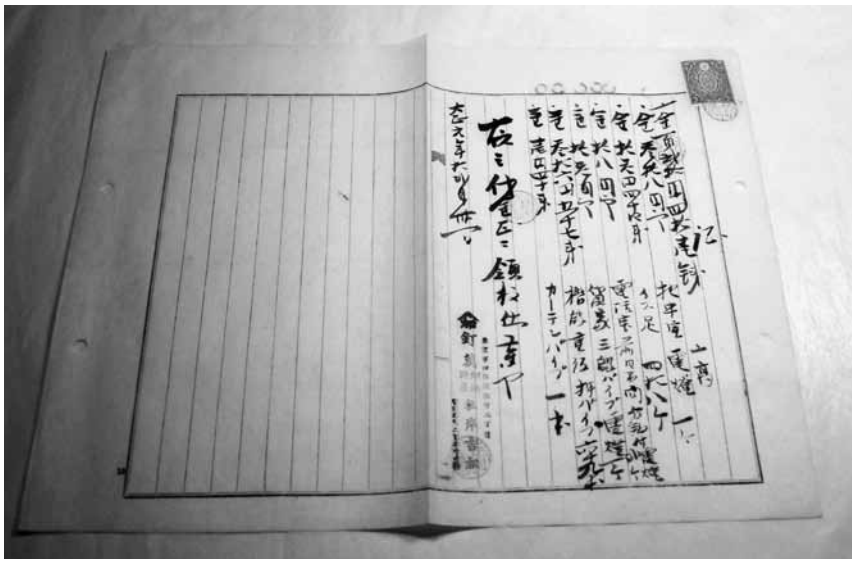
また、東京市麹町区に新築された高田商会社屋は、ゲオルグ・デ・ラランデの設計による５階建て、煉瓦造のオフィスビル。1914年（大正３）に竣工したが、この建物は、関東大震災によって倒壊した。デ・ラランデ事務所の所員であった高堂徳治氏が当時の思い出を以下のように語っている。

「そのころ先生は高田商会本社の設計中だつたが、やがてそのオーストリの本格的なセセッション建

築が丸の内の一角に建設されると世人はその斬新な、瀟洒な、手法に驚異の眼をみはつたのであつた。しかし、その画期的な革新建築も大正12年の大震災で、表装の石材は剥落し、柱上の小児彫像は街頭に投げ出されて、見るも無残な姿となった。」[6)]

（3）根岸吉松

根岸吉松は、幕末に四谷塩町に創業した釘・金物商。1825年（文政８）生まれの吉松は、改名前は萬吉という名であった。釘屋を屋号とした、釘屋萬吉を略して、「釘萬」の呼び名を使っていた【写真12】。



【写真12】釘萬領収書　（14240387）

新宿歴史博物館特別展図録『収蔵資料展　都市の中の民具』によれば、はじめは和釘を専門に、鍋・釜、鎌・鍬などの農具、やすりやこてなどの工具をあつかっていたが、洋家具に用いる木ねじなどの製造販売を始めた。明治末頃には、釘や金物の製造、小売りと卸業を営んでいた。現在も株式会社釘万として営業を続けている。

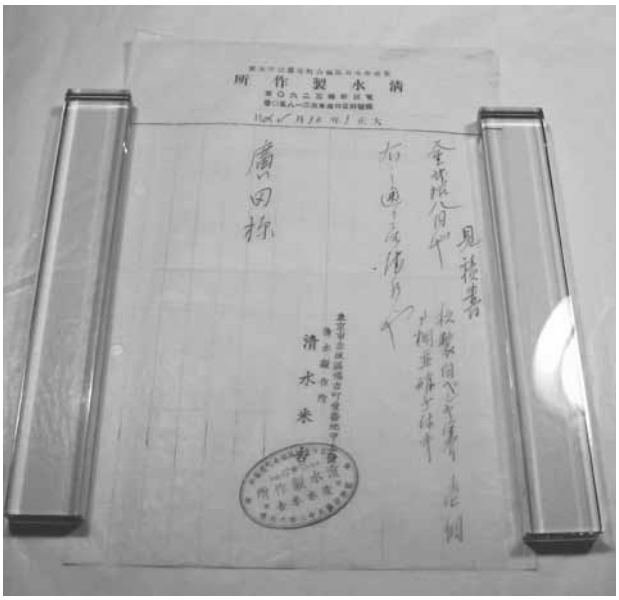
本資料中には、カーテンパイプ、カーテンリング、ブラケットライト、手摺りなどの建築金物を購入した際の領収書等が10点含まれている。

（4）清水米吉

本資料には、清水米吉による戸棚等の家具見積書、請求書、領収書が４点ある【写真13】。

『日清朝土木建築業者信用録　第一版』69頁に「清水米吉　家具装飾請負並ニ建築」の掲載がある。1867年（慶應３）生まれ。幼時より父に従って家業に従事。21歳から３年間はエンデ・ベックマン事務所支援を受けベルリンに留学。自宅は東京市赤坂区青山南町１丁目60番地、事務所兼工場は赤坂区溜池町５番地との掲載がある。

【写真13－１】清水米吉作成の見積書　（14240299）

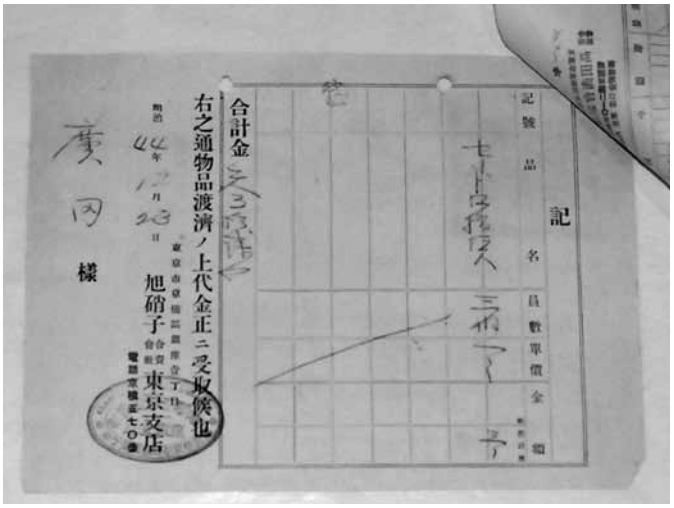


【写真13－２】清水米吉作成の見積書　（14240348）

（５）旭硝子合資会社

旭硝子は、1907年（明治40）９月に板ガラスの国産化を目的に創設されている。社史によると1909年には板ガラスの本格生産が開始されたという【写真14】。

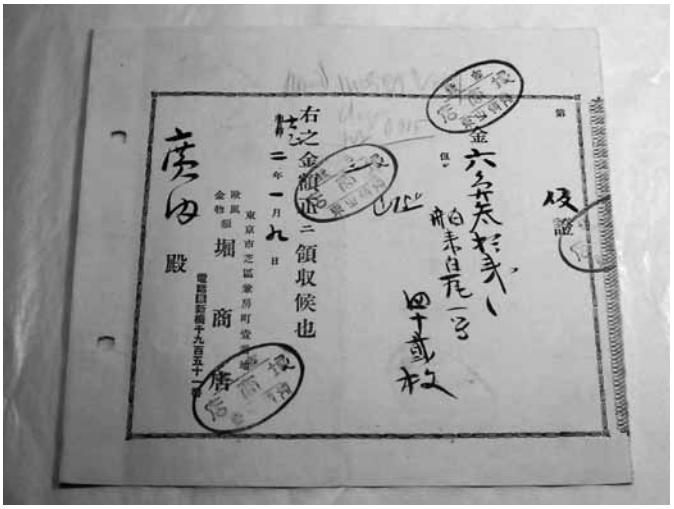
本資料からは、旭硝子からガラスシェードなどのガラス製品を数回にわたって購入していることがわかる。



【写真14】旭硝子領収書　（14240163）

（6）欧風金物堀商店

1890年（明治23）２月に創業。当時は最新の欧米の錠前、建具金物また暖炉金物などを輸入販売していたという。大正初期には自社による錠前、建具金物、そして船舶金物などの製造販売を始め、西洋金物店として現在も営業している【写真15】。



【写真15】堀商店領収書　（14240402）

６．書簡について

本資料の中には、デ・ラランデが廣田理太郎宛てに出した書簡が56点、デ・ラランデ事務所の庶務主任イーデニングが出した書簡が３点、英語通訳竹内松吉が出したと思われる書簡が３点、廣田理太郎がデ・ラランデ宛の書簡の下書きが３点ある。内訳は、【表１　書簡リスト】のとおり。

本稿では、書簡の内容の詳細に触れることはできないが、引き続き読み解く作業を進めていきたい。

書簡には、発信年月日が記入されているもの、あるいはデ・ラランデ事務所の事務所スタンプが押されているものがある。また、廣田理太郎（本人あるいは執事か）が手紙を受領した日の年月日とRHの文字が押されているものがある。RHは廣田理太郎のイニシアルであろう。

これらの書簡は、デ・ラランデ事務所において、正式文書であることを示す社用便箋として使われていた、レターヘッドを７種類確認できる。（口絵66 ～ 72参照）カリグラフィーによるシンプルなものもあるが、デ・ラランデ邸が描かれたレターヘッドもある。デ・ラランデは、長女の誕生を知らせるカードや、招待状などのデザインを自分で行っていたこと[7]から、これは、デ・ラランデ自身が描いたものである可能性が高い。

書簡の年代は、1909年（明治42）１月22日から1913年（大正２）10月２日までの４年間にも及ぶ。

1908年４月７日付英字新聞『THE JAPAN TIMES』にはデ・ラランデ事務所に関する広告掲載があり、1908年４月にデ・ラランデ事務所は、横浜から四谷区東信濃町29に移転したことが確認できる。

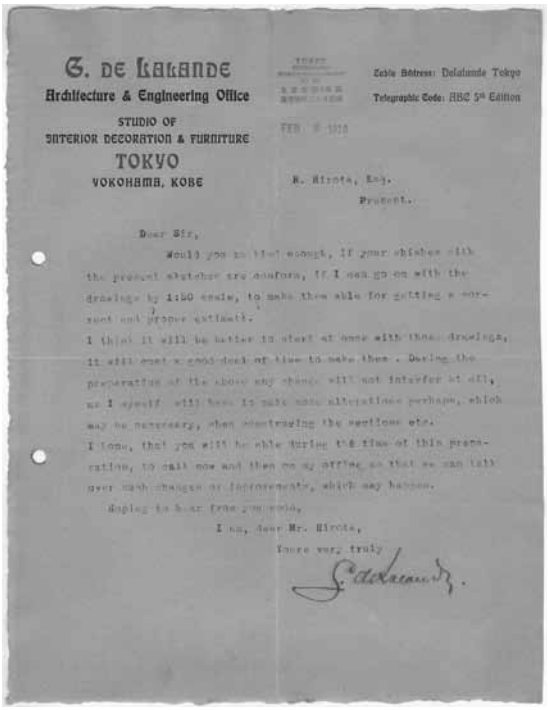
ヤン･レツルの故郷チェコで2000年に出版された『ヤン･レツル書簡集』（チェコ･ナホト ゲート出版）からも、レツルが四谷区東信濃町29に引っ越したのは1908年４月であることや、デ・ラランデ一家が夏にヨーロッパに帰国するので、ヤン・レツルは事務所の責任者を務めていることがわかる[8]。

デ・ラランデ一家は、1908年夏にドイツに帰国し、翌年の1909年に日本に戻って来たことが、レツルの書簡から読み取れる[9]が、時期は不明である。廣田理太郎宛に出された、デ・ラランデによる最初の書簡は、1909年１月22日のスタンプが押されている【口絵66】。このときすでにデ・ラランデは日本に帰国していたのであろうか。レツルの書簡の内容から考えると、1909年１月にデ・ラランデ一家が帰国しているのは、早いような印象がある。またマイト美智子氏によるデ・ラランデの長女ウルズラ氏からの聞き取りでは、三女のYukiは1909年にデ・ラランデの故郷Hirschbergで生まれている[10]ことや、廣田理太郎宛の次の書簡の日付が約１年後となる1910年２月８日であることを考えると、【口絵66】の書簡の日付は、スタンプの年代表記を誤った可能性が考えられるのではないだろうか。【写真16】は最初の書簡の次に綴られていた1910年２月８日付の書簡である。（【表１　書簡リスト】を参照）

1908年にデ・ラランデが四谷区東信濃町29へと移転したとき、敷地には、気象学者・物理学者である北尾次郎が自邸として設計したと伝えられる木造平屋建て･瓦葺き･寄棟屋根･下見板張りの洋館が建っていた。ヤン・レツルがデ・ラランデ一家の留守を預かっている間は、木造平屋建てのこの洋館に暮らしていたのではないかと想像される。この洋館を３階建てに増築した時期は､現在のところ不明である。

デ･ラランデ事務所の所員数は、先の『日清朝土木建築業者信用録　第一版』19頁には11名おり、デ･ラランデ邸の聞取りでは、11名の所員が業務をできるとは考えにくい。ヤン・レツルの書簡よると、独身のレツルの住まいとしては、デ･ラランデ邸は広く、建築事務所（設計のための事務室）を庭を横切ったところに建て、所員は３人であると書き残しているという[11]。【口絵69】のレターヘッドに描かれたイラストをよく見ると、煙突から煙が出ている瀟洒なデ・ラランデ邸隣に、別棟のような平屋の建物が描かれており、事務所棟は別にあったことが裏付けられる。

1912年１月発行の『日清朝土木建築業者信用録　第一版』には、デ・ラランデ邸食堂の掲載があり、少なくとも増築は、1911年の終わりには完了していたと考えられる。



G. DE LALANDE
Architecture & Engineering Office
STUDIO OF
INTERIOR DECORATION & FURNITURE
TOKYO
YOKOHAMA, KOBE

Cable Address: Delalande Tokyo
Telegraphic Code: ABC 5th Edition

FEB 8 1912

H. Hirota, Esq.
Present.

Dear Sir,

Would you be kind enough, if your chishes with the present sketches are conform, if I can go on with the drawings by 1:50 scale, to make them able for getting a correct and proper estimate.

I think it will be better to start at once with these drawings, it will cost a good deal of time to make them. During the preparation of the above any change will not interfer at all, as I myself will have to make some alterations perhaps, which may be necessary, when constructing the sections etc.

I hope, that you will be able during the time of this preparation, to call now and then on my office so that we can talk over such changes or improvements, which may happen.

Hoping to hear from you soon,

I am, dear Mr. Hirota,

Yours very truly

G. de Lalande

【写真16】廣田理太郎宛書簡　（14240004）

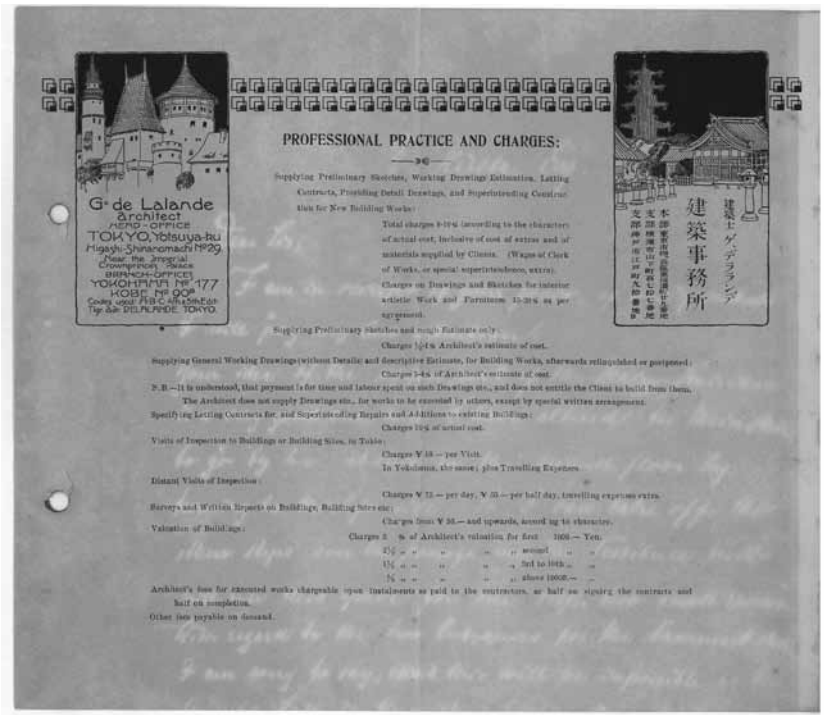
なお、1911年12月から1912年にかけて、廣田との書簡においてのレターヘッドが頻繁に使用されている。

7．まとめ

デ・ラランデ事務所の所員であった高堂徳治氏は、蔵前工業高校を卒業後、デ・ラランデ事務所に入所したことが、『建築画報』1912年の記事に掲載されている。廣田理太郎邸設計時は、高堂氏は事務所に在籍していた。前述の「ゲー・デラランダ先生の思い出」『建築研究』1957年（昭和32）６月号には、以下のように描かれている。

「私がゲー・デラランデ先生に師事していたのは、1912年（明治45）の７月に学校をでてその年の暮れに入営するまでの、きわめて短い期間のことだつたので、実は先生を語る資格に、はなはだ乏しいのであるが、いまその当時を思い出して、私の診た先生の横顔の一端を追想して見ようと思う。いまでも四谷の信濃町の高台にあるその頃の事務所を、国電からの望み見るごとに、馬車で出入りされる先生の姿が、彷彿として目にうつるのである。」

また、紙ファイルの最初に綴じられていたのは、デ・ラランデ事務所の英文の会社案内であった【写真17】。この印刷物の上部に描かれている日本建築、西洋建築のイラストは、1907年から1909年までデ・ラランデ事務所の所員であったヤン・レツルが、故郷の母に出した書簡のレターヘッドにも確認できる[12)]。このイラストも、デ・ラランデ自身によるデザインではないかと想像される。ヤン・レツルは、



【写真17】会社案内　（14240002）

1909年（明治42）８月にデ・ラランデ事務所から独立している。

今回、全体の資料のごく一部のみの紹介に留まったが、これだけまとまったデ・ラランデ事務所に関する資料を収集することができたことは大変意義深い。多くの研究者の目に触れ、明治期の外国人建築家の活動とその実態について明らかになることを目指したい。

【註】

１）江戸東京博物館所蔵
２）『加藤シズエ　ある女性政治家の半生』日本図書センター・1997年発行
３）『横浜都市発展記念館研究紀要　第７号』横浜都市発展記念館・2011年発行
４）『人事興信録』1911年４月発行
５）中川清「明治・大正期の代表的機械商社高田商会」『白鷗大学論集』1995年発行
６）高堂徳治「ゲー・デララランダ先生の思い出」『建築研究』1957年６月号発行
７）マイト美智子「デ・ラランデの経歴」『江戸東京たてもの園　デ・ラランデ邸復元工事報告書』2014年発行
８）菊楽忍「ヤン・レツル再考－書簡集から建築活動をたどる」『広島市公文書館紀要』第25号　2012年発行
９）菊楽忍「ヤン・レツル再考－書簡集から建築活動をたどる」『広島市公文書館紀要』第25号　2012年発行
菊楽忍「書簡集から建築活動をたどる---建築家ヤン・レツルについて」『東京都江戸東京博物館研究紀要』第５号　2015年発行
10）マイト美智子「デ・ラランデの経歴」『江戸東京たてもの園　デ・ラランデ邸復元工事報告書』2014年発行
11）菊楽忍「書簡集から建築活動をたどる－建築家ヤン・レツルについて」『東京都江戸東京博物館研究紀要』第５号　2015年発行
12）菊楽忍「書簡集から建築活動をたどる－建築家ヤン・レツルについて」『東京都江戸東京博物館研究紀要』第５号　p.70　デ・ラランデ事務所の隆盛ぶり1908年２月19日付　母への書簡画像

【表１　書簡リスト】

資料番号	書簡の概要	宛先	発信者	書簡発信年月日	便箋種類	書簡自筆／タイプ	日付／書き方	書簡受領印
14240003	自宅の設計を相談する書簡【口絵66】	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1909年1月22日	A	自筆	スタンプ	
14240004	自宅の間取りを相談する書簡【写真16】	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1910年2月8日	A	タイプ	スタンプ	
14240005	設計料について相談する書簡【口絵67】	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1910年3月5日	B	自筆	自筆	
14240006	設計料の内訳を説明する書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1910年5月17日	B	タイプ	スタンプ	
14240007	建築請負者矢部國太郎を紹介する書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1910年10月29日	B	自筆	自筆	
14240011	第２回目の矢部への工事費支払い内訳を説明する書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1910年11月28日	B	タイプ	タイプ	
14240013	支払いの内容を説明する書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1910年12月3日	B	タイプ	タイプ	
14240014	煙突の見積もりに関する書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1910年12月16日	B	タイプ	タイプ	
14240016	第３回目の工事費支払い内訳を説明する書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1910年12月27日	B	タイプ	タイプ	
14240018	中村（文十郎？）への支払いについて説明する書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1910年12月30日	白	自筆	自筆	
14240019	矢部國太郎への基礎工事代金支払いに関する書簡（日本語）	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ事務所	1911年1月12日	白	自筆	自筆	
14240021	第４回目の工事費支払い内訳を説明する書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1911年1月31日	A	タイプ	タイプ	RH1911/02/01
14240024	訪問日時を相談する書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1911年11月20日	市販のカード	自筆	自筆	
14240025	第５回目の工事費支払い内訳を説明する書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1911年2月27日	A	タイプ	タイプ	RH1911/02/28
14240028	井戸の補修について相談する書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1911年3月10日	A	タイプ	タイプ	
14240030	井戸の追加工事を報告する書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1911年3月25日	白	タイプ	事務所スタンプ	
14240031	下書き（会って相談した内容の確認）	ゲオルグ・デ・ラランデ	廣田理太郎	1911年3月24日	白	タイプ	タイプ	
14240032	暖炉の発注書に同封した書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1911年3月24日	A	タイプ	タイプ	
14240034	下書き（間取りの希望について触れる）	ゲオルグ・デ・ラランデ	廣田理太郎	1911年3月25日	白	タイプ	タイプ	
14240036	第６回目の工事費支払い内訳を説明する書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1911年3月27日	A	タイプ	タイプ	RH1911/03/27
14240039	第７回目の工事費支払い内訳を説明する書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1911年4月27日	A	タイプ	タイプ	RH1911/04/29
14240044	第８回目９回目の工事費支払い内訳を説明する書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1911年6月28日	A	タイプ	タイプ	RH1911/06/28
14240047	建築家への設計料について説明する書簡（750円）	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1911年6月23日	A	タイプ	タイプ	
14240048	設計料3回目の支払いとして小切手を受け取ったと伝える書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1911年6月27日	A	タイプ	タイプ	
14240050	タイルの色を確認する書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1911年7月8日	A	タイプ	タイプ	

14240052	工事の進捗状況を伝える書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1911年7月31日	A	タイプ	タイプ	
14240053	第１０回目の工事費支払い内訳を説S明する書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1911年7月27日	A	タイプ	タイプ	
14240061	基礎工事の追加を相談する書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1911年8月29日	A	タイプ	タイプ	RH1911/09/01
14240065	矢部國太郎への工事費支払いを説明する書簡【口絵68】	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1911年9月1日	C	自筆	自筆	
14240070	応接室のレリーフの注文を確認する書簡（横浜ポール邸にも触れる）	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1911年9月15日	A	タイプ	タイプ	
14240072	レリーフの発注を確認する書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1911年9月18日	A	タイプ	タイプ	
14240076	矢部が作成した工事費の内訳を説明する書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1911年9月22日	A	タイプ	タイプ	
14240079	工事費用の増額内容を説明する書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1911年10月20日	A	タイプ	タイプ	
14240092	マントルピース代56円の支払いに関する書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1911年11月15日	A	タイプ+自筆の追伸	タイプ	
14240097	硝子商佐藤松五郎からのガラス代金請求書に添えた書簡（日本語書簡）	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ事務所	1911年12月1日	C	自筆	事務所スタンプ	
14240103	家具等の仕様を相談する書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1911年12月7日	A	タイプ	タイプ	
14240112	矢部國太郎への工事費支払いを説明する書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1911年12月1日	白	自筆	自筆	
14240118	建築家への設計料について説明する書簡（750円）	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1911年12月20日	D	タイプ	タイプ	
14240119	支払いを説明する書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1911年12月22日	C	自筆	自筆	
14240124	さまざまな支払いについて説明する書簡【口絵69】	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1911年12月27日	D	タイプ	タイプ	
14240136	設計料を受領したお礼の書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1911年12月31日	白	自筆	自筆	
14240139	木下商店で製作する家具の仕様等を尋ねる書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1911年12月29日	D	タイプ	タイプ	
14240153	青焼き図面の送付状	廣田理太郎	イー・デニング	1912年1月25日	D	タイプ	事務所スタンプ	
14240154	手紙のお礼と図面を送付する旨を伝える書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1912年1月13日	D	タイプ	タイプ	
14240159	矢部への工事代金の支払い内容を説明する書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1912年1月27日	D	タイプ	タイプ	
14240161	タペストリーのデザイン決定を促す書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1912年1月29日	D	タイプ	タイプ	
14240162	工事の進捗を伝える書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1912年2月6日	D	タイプ	タイプ	
14240190	カーテン・カーペットの見本を同封した書簡【口絵70】	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1912年3月20日	E	タイプ	タイプ	
14240191	古家の青焼き図面の送付状	廣田理太郎	デ・ラランデ事務所　イー・デニング	1912年3月26日	E	タイプ	事務所スタンプ	
14240198	下書き（手紙の御礼）	ゲオルグ・デ・ラランデ	廣田理太郎		白	タイプ		
14240214	矢部への支払いを依頼する書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1912年4月25日	E	タイプ	タイプ	
14240216	球戯台見積り及び発送を通知する書簡（日本語書簡）	廣田理太郎	デ・ラランデ建築事務所	1912年3月23日	D	自筆	自筆	

14240249	輸入カーテン、カーペット並びに布見本送付状	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1912年6月19日	E	タイプ	タイプ	
14240252	シャンデリア見積書の可否を尋ねる書簡【写真６】	廣田理太郎	イー・デニング	1912年6月20日	E	タイプ	事務所スタンプ	
14240253	設計に関する残金支払を依願する書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1912年6月27日	E	タイプ	タイプ	
14240259	壁紙見本送付状	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1912年7月9日	E	タイプ	タイプ	
14240265	壁紙代金請求書(日本語書簡）【写真８】	廣田理太郎	代理人　竹内松吉	1912年7月11日	D	自筆	自筆	
14240273	旧宅修繕の工事費用に関する書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1912年7月31日	E	タイプ	タイプ	
14240274	一緒に横浜に出かけた際廣田から２円を借用したので返却する書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1912年7月3日	D	タイプ	タイプ	
14240304	矢部からの工事費請求書２通同封と工事費支払に関する書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1912年8月30日	E	タイプ	タイプ	
14240305	食堂壁紙に関する書簡【口絵71】	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1912年8月1日	F	自筆	自筆	
14240306	客間壁紙見本の送付及び決定を促す書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1912年9月20日	E	タイプ	タイプ	
14240308	設計料支払いを依頼する書簡【口絵72】	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1912年10月5日	G	タイプ	タイプ	
14240309	廣田邸完成に向けた決意及び設計料の領収書を同封した書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1912年10月8日	E	タイプ	タイプ	
14240446	絵画購入の領収書同封と独立した中村に仕事斡旋依頼をする書簡	廣田理太郎	ゲオルグ・デ・ラランデ	1913年10月2日	E	タイプ	タイプ	